

ふるさと講座 自然系のお知らせ

シギ・チドリ観察会

●日 時 平成22年5月15日（土）午前9時～12時

●場 所 野付半島

（集合は、野付半島ネイチャーセンター2階）

●講 師 上西春別中学校 教諭 藤井 薫氏

●内 容 この時期数多く見られる「シギ・チドリ」を中心とした観察会を行います。講師の藤井氏が実施した2004～2008の野付半島鳥類生息調査の概要についてのお話もあります。

●集合等 野付半島ネイチャーセンター2階へ9時までに集合してください。

観察地までの移動は、当館で行います。

●定 員 15名（5月14日までに電話・FAX・メールにて氏名・電話番号をご連絡ください。）

●持物等 防寒着、長靴は必ず着用ください。必要に応じて飲物などを持参ください。



シギ・チドリの群れ（藤井氏撮影）

ふるさと講座・歴史系

「幻の町キラクを訪ねる！～野付通行屋・番屋跡遺跡」の様子

4月18日（日）28人の参加者により、ふるさと講座・歴史系の第1回目が開催されました。野付半島ネイチャーセンターで30分程遺跡の概要について説明を聞き、野付通行屋・番屋跡遺跡に向かいました。春の陽気を感じる暖かい日で、往復4kmの道程を歩きました。

野付通行屋跡遺跡では、下草がまだ伸びていないことから、発掘調査を行っていない区域での地形の様子が良くわかり、通路やお墓、畑の畝の跡を見ることができました。

野付番屋跡遺跡では、満潮時は海水の下で見えることはできませんが、干潮時を狙っていったので、陶磁器の破片、鉄鍋などが、番屋のまわりごとに散乱している様子を見ることができました。

野付半島の先端は、普段、なかなか行く事がなく、ここに江戸時代から生活の営みがあり、交通の要所や番屋があったということに参加者一同、驚きの声を上げていました。



野付通行屋跡遺跡で記念撮影



野付番屋跡遺跡を歩く様子

近世の別海を探る 「西別川河口から南、風連湖内」～その3～

アシリコタン

文献史料の標記は、アシリコタンです。走古丹の地名のもととなったものですが、現在の市街北側の遠太との分岐周辺にあったものと思われます。近世は、鯨や鰯の出張番屋があったようです。

○地名の由来

・〔アシリコタン〕

「新 場所」

『丙寅慶応二年正月吉日 万覚帳 安政六末年 子モロ地名和解書』加賀伝蔵 安政6年(1859)

・〔アシリ コタン〕

「新村 根室アイヌ酋長「チンペイ」ト云フモノ威力強クアリシトキ別海村ノアイヌヲ此處ニ移シタリト云フ」『北海道蝦夷語地名解』永田方生 明治24年(1891)

○地勢・建物など

松前藩復領時代 文政4年(1821)～安政元年(1854)

・「アシリコタン 漁小屋并に夷人小屋有。浜伝ひ並びてルエサンサル」『初航蝦夷日誌』松浦武四郎 弘化2年(1845)

・「字アシリコタンに有 一出張漁小家壺ヶ所長八間 横三間 子モロ持 外板蔵貳ヶ所 茅蔵貳ヶ所」

『嘉永七年七月 水野正左衛門様差上書面写巻冊 青山弥惣右衛門様差上書面写巻冊』 支配人 善吉 嘉永7年(1854)

幕府再直轄時代 安政2年(1855)～慶応3年(1867)

・「アシリコタン丑向鱒鰯漁場 巾拾間 長八拾間程 …五六丁程沖より三拾丁程沖迄 辨財船掛場 六十間目壺尋壺尺五寸 六百間目七尋二尺五寸 千八百間目 十尋 此所前濱鰯鱒漁有之候子モロ会所出張候 アシリコタン 出張漁小家 壺軒 横三間 長八間 子モロ会所持 板蔵貳軒 茅蔵貳間」

『根室旧貫誌』喜多野省吾 安政3年(1858)



別海町郷土資料館だより No.130

発行日 平成22年5月6日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

春とは名ばかり、雪や雨、そして風となかなか春を実感できませんが、ふるさと講座ではきっと快晴の良い天気になると信じています。驚くほどのシギやチドリが野付半島に渡ってきます。チョロチョロ動く、コミカルな動きにも注目していただきたいと思います。(K.I)